REAL VOICE
授業実践事例
リアルボイス
公民科

身近なイベントから保険を自分ごととして考える授業を実践

2年生の公共の授業で「明るい未来へTRY!」を利用した別木萌果先生に、授業で工夫したこと、生徒の民間保険に対する反応を伺いました。

今回の授業では、『明るい未来へTRY!』の冊子を利用して、社会保障制度の単元の授業を組み立てました。「リスクと備え」というテーマを中心に据え、将来自分が直面する「人生最大のピンチ」とはなんだろう、という問いかけから授業を始めました。その際、「さあ、大喜利です!」と声をかけ、生徒たちが楽しくリスクについて考えられるような工夫をしました。生徒からは「仕事がなくなる」「家を追い出される」とか「結婚ができなくなる」などさまざまな意見が出てきました。一通り意見が出たあとは、『明るい未来へTRY!』公民科用のページを開かせ、今後の人生におけるリスクを確認させました。

そのあと、人生におけるリスクをカバーしてくれる、社会保障制度の4つの柱「社会保険」「社会福祉」「公的扶助」「公衆衛生」を説明しました。その上で、「自助・共助・公助」という考え方があることを説明し、「自助」には民間保険が含まれていることなどを教えました。

生徒たちは日常生活で保険を身近に感じることはないと思いますので、例として、100人の村人が毎月各自5000円を出し合って、病気になってしまったときの治療費に備えるという設定で、「病気をしたことがない若いあなたは、5000円を払い続けるか?」という問題を投げかけました。「いつ病気になるか分からない」「将来何があるか分からない」などの意見が出て、多くの生徒が払い続けることを選択する結果となりました。

また、二人一組になって保険会社役と高校生役に分かれ、ロールプレイングをしました。修学旅行期間中だけ有効な医療保険や、ホテルの備品を壊したときに補償が受けられる保険など、保険会社役が補償内容を説明し、高校生役が実際にその保険に入るか入らないかを考えます。修学旅行という身近な例で、楽しみながら主体的に考える機会になったのではないかと思います。

民間保険とはどのようなものかを学んだあと、冊子に掲載されている「やってみたいこと」を各自に取り組ませました。人気だったのは「ひとり暮らし」と「海外旅行」でした。

授業の最後には、生徒たちに感想を書かせました。その中には「保険のことを全く知らなかった。知らないと損をすることもあるので、事前に調べることは大切だと思った」「保険は強制的に入るものと思っていたが、自分の意志で加入を決める保険があることを初めて知った」などの感想がありました。自分で「やってみたいこと」を選んで、それに伴うリスクやリスクへの備え方の知識を得て、自分ごとにできたのはよかったと思いました。

生徒たちには、自己責任だから入らなくてもいい、あるいは自己責任だからこそ入った方がいいなど、迷う経験を繰り返しながら、最終的には、必要な備え方を主体的に決める力を育成できたらと思っています。今回の授業を通して、保険に入るかどうかは、自分でよく考えて選択することが大事であるということが伝わればよいと思っています。

ロールプレイング中の生徒たち。ロールプレイングはほかの単元でも頻繁に行われる

東京都立小川高等学校
教諭
別木 萌果 先生

今回実践した授業プランのご紹介

公民科［公共］

対応単元　社会保障制度

目　的

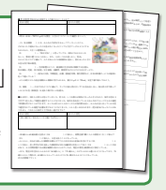
- 人生のリスクについて理解し、社会保障の意義について考える。
- ロールプレイを通して自分にどのような保険が必要か考える。

プランのポイント

▶修学旅行を題材に、自分にどのような保険が必要か考えるロールプレイを通して、保険を身近にとらえられるようにした。

使用教材

■『明るい未来へTRY!』(冊子)
「公民科用」「やってみたいこと編」
■授業プリント※
※授業プリントは別木先生が用意したオリジナル教材。



学習の展開

時間配当(分)	学習内容と指導上のポイント		使用教材等
	学習内容	ポイント	
導入(5分)	●将来自分が直面する人生最大のピンチがあるとしたらそれは何かを考えて隣の席の人と意見交換を行う。 ●冊子を開き、人生のリスクについて確認する。	▶「大喜利です!将来自分が直面する人生最大のピンチとは?」と生徒を惹きつけ、授業に興味を持たせる。	冊子 P.8〜9 【プリント】
展開(40分)	●日本の社会保障制度について理解する。	▶社会保障の4つの柱について説明する。	冊子 P.8〜9 【プリント】
	●もし自身が病気にかからない健康体だった場合、医療保険・年金保険に入るか入らないか考えさせ、それらの意義について考える。 ●日本の年金保険制度の仕組みについて理解する。	▶現時点で病気にかかっていなくても将来のリスクを考える必要があることを強調する。	冊子 P.8〜9、11 【プリント】
	●修学旅行に関わる保険に入るかどうか、保険会社役と高校生役に分かれて、ロールプレイを行い、保険の意義について理解する。	▶さまざまな保険があることを解説する。	冊子 P.11 【プリント】
	■参考:授業内で生徒が実践したロールプレイのシナリオ 保険会社:もし修学旅行先で病気になったときのために、修学旅行の期間だけ使える医療保険に入るのはいかがですか?沖縄でコロナとかになったら大変ですよ? → 高校生(自分):どうしようかな…医療保険に(入る!・入らない!) 保険会社:もし修学旅行先で病気になったら保護者の方に迎えにきてもらわないといけないのですが、その時に保護者の飛行機代を補償してくれる保険に入るのはいかがですか?もしこれに入っていれば、飛行機代を最大15,000円分出してもらえます。この保険に入っていなければ保護者の飛行機代は100%自己負担です。ただ、保険に入ってもあなたが病気にならなければ払った保険料は戻ってきません。 → 高校生(自分):どうしようかな…保護者の飛行機代を補償してくれる保険に(入る!・入らない!) 保険会社:では、もしあなたが修学旅行で泊まるホテルで、ホテルの備品を壊してしまった時のための賠償責任保険に入るのはいかがですか?修学旅行ではしゃいでモノを壊してしまうかもしれません。 → 高校生(自分):どうしようかな…賠償責任保険に(入る!・入らない!)		
	●自助型の社会か、共助公助型の社会か、それぞれどのくらいの割合の社会が望ましいか考える。	▶税金の使い道について関心を持つことの意義を伝える。	冊子 P.13 【プリント】
	●「やってみたいこと」のページに各自取り組み、自分の人生と保険のかかわりについて理解する。	▶わからない問題があれば、それぞれ解説を行う。	冊子 P.18〜26
まとめ(5分)	●授業の感想を書く。	▶自分の言葉でまとめさせる。	

REAL VOICE
授業実践事例
リアルボイス
公民科

自助・共助・公助の概要を知り、身近な事例から民間保険の必要性や役割を理解

教材「明るい未来へTRY!」を組み込んで授業を行った水野雄人先生に、授業のポイント、自助・共助・公助や民間保険の概要を理解させる工夫などを伺いました。

東京都立東久留米総合高等学校
教諭
水野 雄人 先生

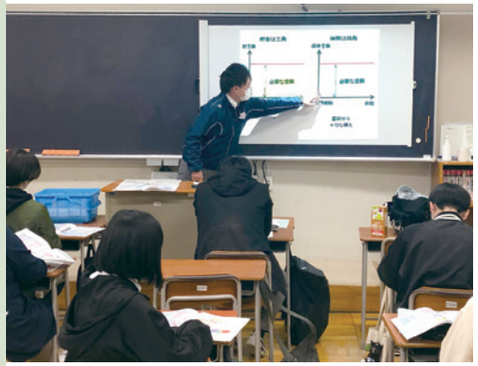
今回の授業のポイントは、自助、共助、公助のなかでも特に自助に着目し、生徒たちに人生で起こる様々なリスクに備えるためには何が必要かを考えさせたところです。授業は、「降水確率40%で傘を持っていくかどうか」という身近な質問からスタートし、リスクを想起しやすくしました。人生におけるリスクを生徒たちに列挙させた上で、共助や公助でカバーできるリスクと、自助でしか備えられないリスクもあることを説明し、自助としての預貯金・民間保険の重要性について話しました。ただ、高校生にとって民間保険は理解しにくいと思ったので、「結婚して生命保険に入った」「自転車に乗っていて事故にあったので自転車保険に入った」など、私の経験も盛り込んだプリント教材を作成しました。これは生徒たちの反応がよく、身近な出来事と保険を結びつけることで、民間保険が必要となる状況がイメージしやすくなることを実感しました。

また、ワークでは、Aさん(26歳独身で健康体。最近大きな川沿いに木造の戸建て住宅を購入)とBさん(45歳既婚。持病があり入院歴あり。丘の上の新築マンションを購入)という仮想の人物を設定。この2人の生命保険と火災保険の保険料にはどんな違いが出てくるかということを生徒たちに考えさせました。ここでは、遭遇するリスクの高さが保険料につながっているということを学ぶだけでなく、早い段階からリスクについて考え、リスクをなるべく排除または軽減していくことも大切だという視点も養ってもらいたいと考えました。この回答は、ほとんどの生徒が分かっていましたね。特に感心したのは、「建物の立地や構造だけを見ると、BさんのほうがAさんより保険料が安くなると思いますが、もしかしたらAさんはまだ26歳独身で収入も低いだろうし、家財も少ないだろうから、火災保険も安いものに入っている可能性があるのではないですか」と発言した生徒がいたことです。想像以上の答えが返ってきて、勉強になりました。

最後に、経済を学ぶ意義を理解してもらうため、共助・公助重視型の国と自助重視型の国のどちらがよいかを考えさせました。また、次の授業ではより一層自助に焦点をあて、資産形成の授業を行いました。これは、財政や社会保障制度、そして資産形成などが相互に関係しあっているということを生徒に伝えたかったからです。

今回は教材として「明るい未来へTRY!」を直接使用はしませんでしたが、こちらを参考にプリントを作りましたし、保険を説明する図版も参考にしました。「明るい未来へTRY!」は、読めば読むほど分かりやすく、実際にこれをもとに授業をつくり始めると、「改めてよくできているな」と再認識しましたし、触発されました。

民間保険への加入は、自らが抱えるリスクを減らすための重要な選択肢です。しかし、むやみに多くの民間保険に加入することはかえって家計を圧迫し、これでは自助になりません。生徒自身にとって本当に必要なものは何かを判断する力を養っていくことが重要だと考えています。この授業を通して、生徒たちが社会保障制度を理解しつつ、自身にとって必要な自助を適切に選択することが大切だというメッセージが伝わればと思っています。



「貯金は三角、保険は四角」の意味を説明しつつ、保険が重要な助けになることを説く水野先生

今回実践した授業プランのご紹介

公民科［公共、政治・経済］

対応科目・単元 **時事社会・社会保障と民間保険**

※「時事社会」は1年次に履修した「公共」の知識をベースにより発展的・実践的な内容を学ぶ本校定時制の独自科目である。履修対象者は卒業年次(3・4年次)である。

目　的

- 社会保障制度と民間保険(特に損害保険)の役割について理解する。
- 日本の社会保障制度の現状と課題について理解する。
- 生活上直面する様々なリスクにどう対処していくかを考察する。
- 民間保険の学習において、自助・共助・公助が最も適切に組み合わされるようにするにはどうするべきかを考察する。
- 社会保障の在り方として、高福祉・高負担か、低福祉・低負担かなどの視点から考察する。

プランのポイント

- ▶高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説の公民編において、公共では「貯蓄や民間保険」に触れることが明示されている。
- ▶金融庁の老後2000万円問題や資産形成の必要性がうたわれ、共助や公助(公的な社会保障制度)だけでは生活上のリスクに対処しきれないことに気付かせる。
- ▶自助の部分では、自らの遭遇したリスクや経験を踏まえ、貯蓄だけでなく民間保険(生命保険・損害保険)を上手く活用していく大切さについて伝える。
- ▶様々な事情を抱える夜間定時制課程の生徒でも主体的・対話的な深い学びが実現できることを示す。

使用教材

■「明るい未来へTRY!」・「公民科用」(生徒用冊子)

■「時事社会」プリント※

■スライド※

※プリント、スライドは水野先生が用意したオリジナル教材。

学習の展開

時間配当(分)	学習内容と指導上のポイント：学習内容	学習内容と指導上のポイント：ポイント	使用教材等
	本時の主題　人生のリスクを踏まえて、社会保障制度と民間保険の役割を理解する。		
導入(5分)	●明日の降水確率40%で傘を持っていくかを考える。 ↓ 人生で遭遇する可能性のある様々なリスクを書き出す。	▶身近なリスク(降水確率等)を取り上げ、これから遭遇するであろう様々なリスクを想起させる。	【プリント】
展開(40分)	●そのようなリスクへの対処として民間保険や公的な社会保障制度(共助・公助)があり、共助・公助(公的な社会保障制度)のしくみについて理解する。	▶社会保障の4つの柱は必須事項として押さえる。健康保険証や生活保護などの詳細にも触れる。	冊子 P.8〜9 【プリント】、【スライド】
	●老後2000万円問題、健康寿命と平均寿命のギャップ、資産形成の必要性などに触れ、共助・公助のみではカバーしきれないことを理解する。	▶新聞記事の見出しを活用(NIE*)し、年金(共助)のみでは限界があることを強調する。	【プリント】、【スライド】
	●そこで大切になってくるのが自助であり、貯蓄や民間保険という選択肢があることを理解する。	▶貯金は三角、保険は四角という考え方を押さえる。	冊子 P.12 【プリント】、【スライド】
	●水野先生が今まで遭遇したリスクを踏まえ、どのような備えがあれば対処できたかを考える。 ↓ 2つの保険商品を例に、個人の状況によって保険料に差が出ることや保険料によって保障(補償)内容が異なることを理解する。	▶健康診断の結果、自転車での事故、結婚式の延期、自然災害といった様々なリスクに直面したことを伝え、自助(特に民間保険)の必要性を強調する。生命保険・損害保険のシミュレーションワークを行う。	【プリント】、【スライド】
	●仮想2つの国のストーリーから、共助・公助重視型 or 自助重視型のどちらが良いかを考える。 ↓ 経済を学ぶ意義について理解する。	▶スウェーデン(共助・公助重視型)、アメリカ(自助重視型)を例に、社会保障のあるべき姿を考える。経済(経世済民)という言葉の意味を考える。	冊子 P.13 【プリント】、【スライド】
まとめ(5分)	●授業の振り返りとして時事キーワードをおさえる。	▶その日学んだ内容の要点を毎回の授業で確認している。	【プリント】

＊Newspaper in Educationの略。新聞を学校教育の教材として活用する取り組み。

REAL VOICE
授業実践事例
リアルボイス
公民科

社会保障制度と民間保険の役割を理解 キャリア教育としての側面も付加

教材「明るい未来へTRY!」を活用して1年生の公共の授業をおこなった佐々木啓真先生に、社会保障制度や民間保険を自分ごととして捉えさせる工夫などを伺いました。

東京都立世田谷泉高等学校
地歴公民科教諭
佐々木 啓真 先生

今回の授業の大きなポイントは、社会保障教育の単元に民間保険の学習を盛り込んだところです。生徒には人生の中で生じるリスクに気づいてもらい、積極的に考える姿勢を身につけてほしいと考え、授業を構成しました。

授業の冒頭では「定期考査で赤点を取って単位を落とす」というリスクを取り上げ、それを回避する方法を、自助、共助、公助に結びつけて説明しました。つまり、1人で勉強するのが自助、友だちと教え合うのが共助、先生のような大きな存在に教えてもらうのが公助としたわけです。これは生徒たちの反応がよく、身近なことに落とし込むと伝わりやすいのだと感じました。

また、授業では「病気になる」「事故に遭う」といった幅広いリスクに気づかせた上で、社会保障制度や民間保険の説明につなげていくようにしました。授業の振り返りでは「社会保険はお金をたくさん取られるイメージだったのですが、他の人の医療費を支えることでもあると知り、よい仕組みだと思った」と書く生徒もいて、自分ごととしてきちんと理解していると感じました。

さらに、社会保障制度と財政を結びつけて教えたのも、今回の授業で工夫した点です。社会保障制度を説明したあとに、じつは制度の持続可能性を脅かすことがおきていると生徒に問題提起し、その要因の一つが少子高齢化であると説明しました。そして、「社会保険料などの負担に対して給付が増加し、給付と負担のバランスを確保するため財政負担が生じている」と解説しました。この流れを説明することで、社会保障制度と財政が結びつき、生徒たちの財政への理解が進むと思いました。

グループワークで話し合う生徒たちの様子。「人を傷つけてしまったときのための保険を重視するグループと、自分が損害を被ったときのための保険を重視するグループに分かれました。よい意味で、利他的・利己的の違いが出ました」と佐々木先生。

グループワークでは価値観の相違を実感

さらに、「明るい未来へTRY!」を使い、グループワークを実施しました。損害保険と関係するリスクを取り上げ、優先して備えるべきリスクは何かをダイヤモンド・ランキング（13ページ参照）で考えさせました。生徒たちに考えてもらう際は、自分は何に備えるべきかを、個人で考えさせると同時に、グループのメンバーの価値観をすり合わせてひとつのダイヤモンド・ランキングを作るように指示しました。結果、生徒たちは自分の価値観が必ずしも他者の価値観と一致しないことを知ったようで、「人によって見るポイントが違っていて面白い」という感想がありました。

今回の授業は、広い意味でのキャリア教育でもあると思っています。生徒たちの未来には、さまざまな選択が待ち受けています。そのときに、何を選ぶか。生徒たちには「なんとなく」選ぶのではなく、いろいろな条件を考慮した上で結論（選択）に到達してほしいと願っています。この授業を通して、社会保障制度や民間保険を理解することと同時に、自分で考えて結論に達することを学んでもらえたら嬉しいです。

今回実践した授業プランのご紹介

公民科［公共、政治・経済］

対応単元（例） 公共・少子高齢社会における社会保障

目　的

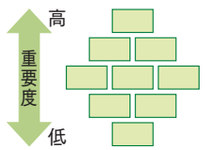
- 社会保障制度と民間保険（損害保険）の役割について理解する。
- 損害保険の学習において、備えたいリスクに優先順位をつけることで、主体的に人生のリスクに向き合う態度を養う。

プランのポイント

- ▶「自助・共助・公助」の説明から入り、保険のしくみを前半に学習することで、日本の社会保障制度の中心である社会保険と、その後に学ぶ民間保険の内容を理解しやすくする。
- ▶高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説の公民編において、公共では財政の持続可能性と社会保障を関連づけて扱うこととされていることを反映した。
- ▶2コマ以上に拡充させて、生徒の対話的な活動時間を増やすことも可能である。

学習の展開

時間配当（各）[計]	学習内容と指導上のポイント：学習内容	学習内容と指導上のポイント：ポイント	使用教材等
導入（5分）[5分]	本時の主題　人生のリスクを踏まえて、社会保障制度と民間保険の役割を理解する。 ●人生におけるリスクとは何かを考えて書き出す。 ●リスクへの対応策として自助・共助・公助の観点があることを、具体例を通じて理解する。	▶授業の冒頭で、いきなり定義の説明から入るのではなく、高校生の身近なリスク（テストで赤点を取ること等）を取り上げて、その対応策を自助・共助・公助の観点で考えさせる。	
展開（35分）[40分]	●保険のしくみについて理解する。 ●社会保障制度（共助・公助）を理解する。 ●社会保障制度の持続可能性について、財政と関連づけて理解する。	▶保険のしくみについて動画「保険のキホン」を視聴すると効果的である。 ▶教員が社会保障制度や民間保険の恩恵を受けた経験を語ることで、生徒は自分ごととして理解しやすくなる。	冊子「保険の役割」、「社会保険と民間保険」 動画「保険のキホン」
	●自助における民間保険の役割について、ドライブやひとり暮らしのリスクについて考える。 ●備えたいリスクについて、ダイヤモンド・ランキング※を作成する。最初は個人で作成し、その後4人程度のグループで1つのダイヤモンド・ランキングを作成する。	▶民間保険（損害保険）の個別の扱いは、生徒の興味に応じて選択する。動画は内容を絞って視聴させる。 ▶ダイヤモンド・ランキングの作成を通じて、自分と他者のリスクへの考え方の差異や類似点を実感させる。	冊子「友だちとドライブに行きたい!」、「憧れのひとり暮らしがしたい!」 動画「友だちとドライブに行きたい!」、「憧れのひとり暮らしがしたい!」
まとめ（5分）[45分]	●授業の振り返りとして文章を作成する。	▶自助として民間保険を活用することも選択肢の一つであることを確認する。	

※ダイヤモンド・ランキング

あるテーマに対して用意した9つの選択肢をひし形に並べ、自分が大切だと考える順にランキングし、それをもとにグループで議論し、最終的にグループのランキングを決定するワークです。